未来に残そう 但馬の草花

発行/（財）但馬ふるさとづくり協会

「写真/リュウキンカ」

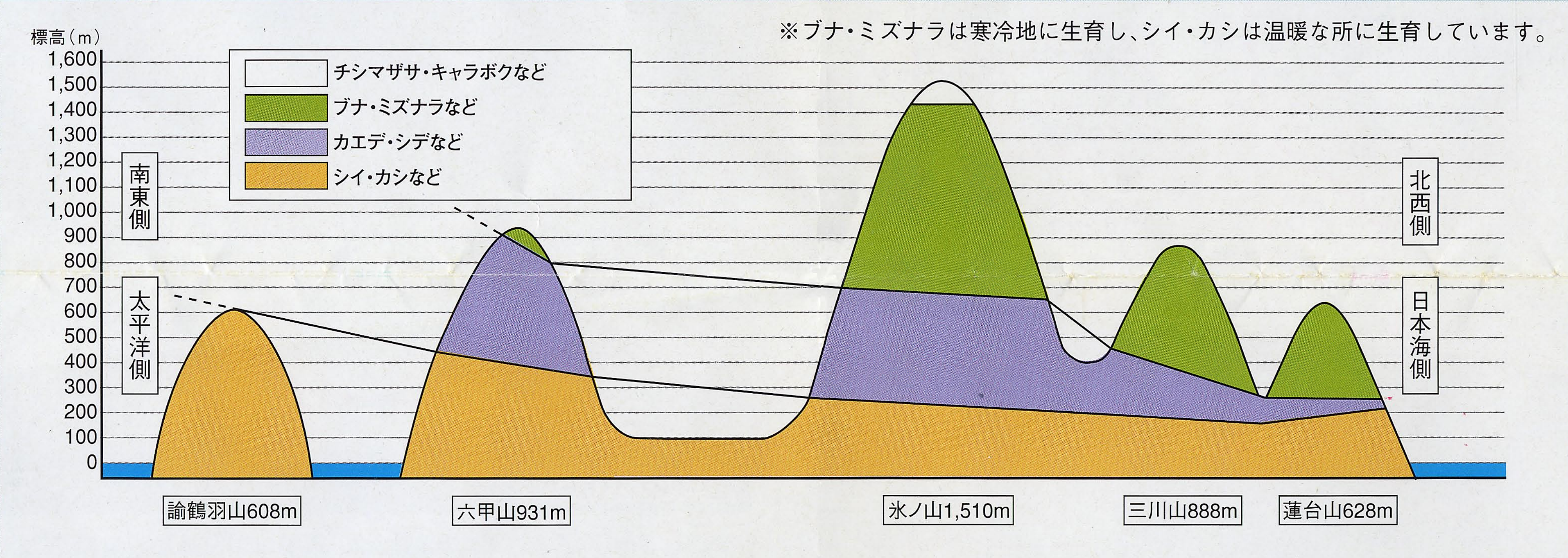
野生の草花が語る但馬の自然

兵庫県の4分の1の面積を占める但馬は、南北に連なる1,000ｍ級の二つの山脈が、北西の季節風をさえぎるために、複雑な自然環境を創り出しています。

例えば降水量をみると山岳地では2,500㎜、平野部では1,800㎜、積雪量に至っては500㎝～50㎝と大差がある上に積雪期間も170日～50日の長短があります。さらに対馬暖流や地質、土壌、日照時間の違いなどによって、植生分布に大きな影響を与えています。

このような環境条件から山地においては南東面と北西面で植生が異なります。

県内の代表的な山を例にとって、主な植生分布を示すと下の図のようになります。



但馬のこのような環境が、北方系から南方系まで多様な植物を残しています。

例えば北方系植物ではミズバショウやオオバミゾホオズキなどがあり、南方系植物ではウラシマソウやイワギリソウなど多種多様です。

但馬には地域特有の植物を育む豊かな自然環境が備わっていましたが、私たち人間の生活様式の変化により急激に減少しています。

今回、表紙に用いたリュウキンカなど貴重種については、絶滅の危機にあるため掲載をさしひかえました。

当マップの目的は地域の人々が草花をはじめ自然環境の大切さに関心を寄せ、自然の豊かさを次世代に継承するための第1歩として作成するものです。

低地で見られる草花

マークの説明
開花時期
自生地
湿 湿地　河 河原　岩 岩場　渓 渓谷　水 水生　草 草地
浜 浜辺　林 林辺　林 林下
自生地は代表的な場所を示すものであり、これ以外の場所にも自生していることがあります。

1 カワラハハコ
キク科
河

大水がでて小石や砂などが集まるような河原に自生する高さ30～50cmほどの多年草。茎に白い毛が多く、全体に白く見える。近年の河川改修により著しく減少している。

【自生地】日高町／野々庄、養父市／藪崎

2 オオアカウキクサ
アカウキクサ科
湿

栄養の乏しい池や水田、湿地に自生する常緑の多年草の水草で、夏や冬には魚のうろこの形をした葉が紅紫色になる。除草剤や水の富栄養化により減少している。

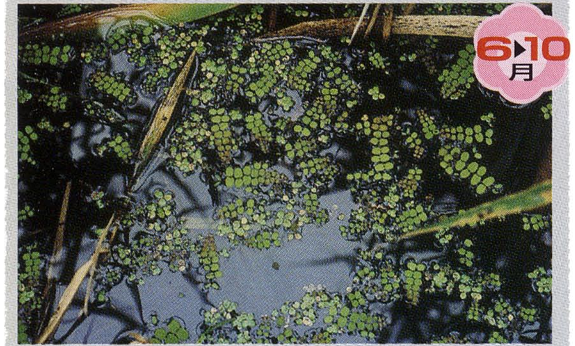
【自生地】豊岡市／田結

3 コウホネ
スイレン科
湿

池や沼、川辺の水深の浅い場所に自生する高さ30cmほどの多年生の水草で、夏に5cmほどの黄色の花が咲く。根茎の内部が白く、白骨のように見えることから漢字で「河骨」と書く。

【自生地】豊岡市／六方川

4 サンショウモ
サンショウモ科
湿



池や水田などで水面に浮かぶ水草で、冬には枯れる一年草。名前は葉の形が山椒（サンショウ）に似ていることから由来する。除草剤の使用などにより激減している。

【自生地】豊岡市／コウノトリの郷公園

5 タコノアシ
ユキノシタ科
湿

河原や休耕田などの湿地に自生する一年草。洪水などで破壊を受けた場所に急に群生することがある。花や実の形がタコの吸盤に似ているので名付けられた。河川改修や湿地の埋め立てをする時には配慮が望まれる。

【自生地】豊岡市／六方メダカ公園

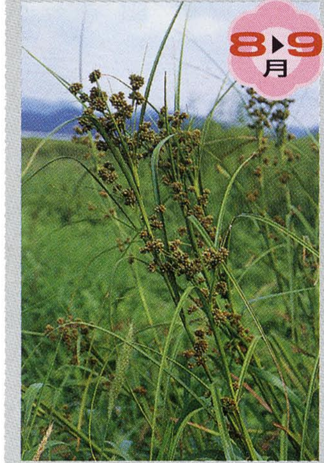
6 ハンゲショウ
ドクダミ科
湿

低地の湿地に群生する多年草で、夏至から11日目の半夏生（ハンゲショウ）の頃に、花を開き、葉の上半分が白くなることから名づけられている。花が咲き終わると再び緑にもどる。

【自生地】豊岡市／円山川公苑、日高町／上郷

7 マツカサススキ
カヤツリグサ科

湿



日当たりの良い湿地やため池、休耕田などに自生する多年草で、夏の終わりから秋にかけて茶色の松かさに似た穂をつける。あまり目立たないので、開発により消滅してしまう恐れがある。

【自生地】豊岡市／円山川（野上）

8 ミクリ
ミクリ科

湿

池や川、水路など水深の浅い水中に自生する多年草で、直径2㎝ほどの実の集まった様子が「栗のいが」に似ていることから名前がついている。護岸工事など河川改修により生育地が少なくなっている。

【自生地】豊岡市／六方川、出石町／谷山川

9 ミズアオイ
ミズアオイ科

湿

水田や河川の下流域の湿地などに自生する高さ20～40㎝ほどの一年草で、発生は年により変動があり、休耕田に急に出ることがある。出石町では中学生により保護され、毎年見事な花が水面を埋めている。

【自生地】城崎町／戸島、出石町／谷山川

10 ミズトラノオ
シソ科

湿

水辺の湿地に自生する高さ30～50㎝ほどの多年草で、当地のものはめったに咲くことがないが、紅紫色の花穂をつける。その姿が「虎のしっぽ」に似ていることから名前が付いている。

【自生地】日高町／上郷

11 バイカモ
キンポウゲ科

水

湧水地など冷たく清らかな川に自生する多年草で、水中で梅の花に似た白い花を咲かせる。糸状の細い茎の姿からカワノボリとも呼ばれている。洪水や工事による水質汚濁に弱い。各地域で活発な保護活動が行われている。

【自生地】日高町／十戸、村岡町／和池
浜坂町／田君

12 カンサイタンポポ
キク科

草

古くから主に西日本で自生している高さ20㎝ほどの多年草。近年は繁殖力が旺盛な西洋タンポポが広まっているが、但馬では海岸部に比較的多く残っている。

【自生地】竹野町／猫崎半島、但東町／登尾

13 コマツナギ
マメ科

草

7▶9月

日当たりの良い、原野、道端、丘陵地に自生する高さ60～90㎝で一見、草のように見えるが小低木である。夏に紅紫色の花を咲かせる。名前は茎がとても丈夫なことから、昔、馬（駒）をつないでおいたことに由来する。

【自生地】山東町／新堂

14 シロバナタンポポ
キク科

草

3▶5月

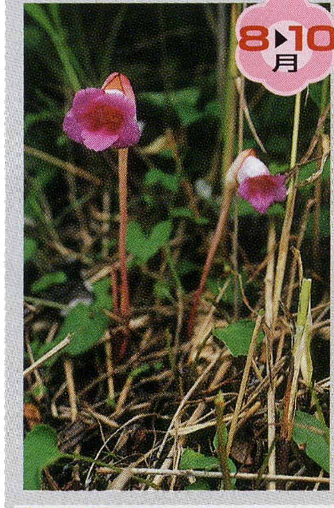
日当たりが良く、水はけの良い場所に自生する多年草で、タンポポの中でもこの種だけが白い花を咲かせる。

【自生地】但東町／中藤、和田山町／玉置

15 ナンバンギセル
ハマウツボ科

草

8▶10月



ススキなどの根に寄生する高さ20～30㎝の一年草の寄生植物で、その姿から名付けられた。光合成をする必要がないため葉緑素はなく葉もほとんど退化している。ススキ草原の保全が必要である。

【自生地】和田山町／平野

16 ヒガンバナ
ヒガンバナ科

草

9月

日本全土に分布し、人里近くに見られる多年草で、その昔、中国より渡来したとも言われる。秋には高さ40～70㎝ほどの花茎を出し、赤色の花を咲かせる。花が枯れると葉が伸び出して春には枯れる。

【自生地】山東町／与布土 他、但馬各地

用語説明

自　　生…植物が人の保護を受けずに生き続けること。
多 年 草…2年以上にわたって生きる植物で、冬になると地上部は枯れるが地下部は残り春になると芽を出す。
群生・群落…同一種の植物が同じ場所に多く生えていること。
花　　茎…タンポポやヒガンバナなど葉をつけずに、花だけをつける茎。
乱　　獲…やたらに取ってしまうこと。

海岸で見られる草花

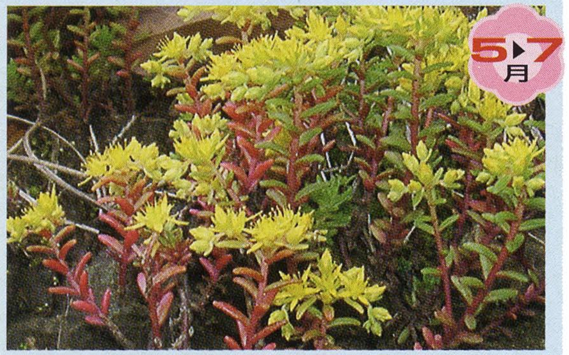
マークの説明

開花時期

自生地: 湿 湿地　河 河原　岩 岩場　渓 渓谷　水 水生　草 草地　浜 浜辺　林 林辺　林 林下

自生地は代表的な場所を示すものであり、これ以外の場所にも自生していることがあります。

1 タイトゴメ
ベンケイソウ科　岩



海岸の岩場や崖などに自生する高さ10cmほどの多年草で、厚みのある多肉質の葉をつける。乾燥に非常に強く、また塩水のあたる場所でも生育する。

【自生地】竹野町／大浦

2 タンゴイワガサ
バラ科　岩

福井県から兵庫県まで分布し、海岸の日当たりの良い岩場に自生する落葉低木で、花の様子が傘を開いたような形に見えることから名前が付いた。浜坂町芦屋の群落は県指定天然記念物となっている。

【自生地】浜坂町／芦屋

3 ワカサハマギク
キク科　岩

福井県から鳥取県までの日本海側に分布し、日当たりの良い岩場に自生する高さ40～80cmほどの多年草。浜坂町芦屋の群落は県指定天然記念物となっている。

【自生地】浜坂町／芦屋

4 コウキヤガラ
カヤツリグサ科　湿

海岸近くの海水と淡水が混じるような湿地（汽水域）に自生する高さ40～100cmの多年草で茎の先に褐色で卵の形をした穂をつける。

【自生地】城崎町／戸島

5 シオクグ
カヤツリグサ科　湿

海水の出入りする河口付近の湿地に自生する高さ30～60cmほどの多年草で、京都府ではすでに絶滅したと言われる。汽水域のヨシ原とともに保護保全が望まれる。

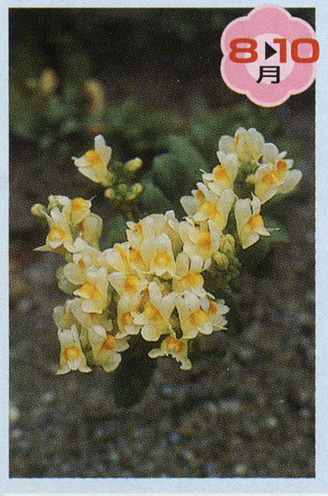
【自生地】城崎町／菊屋島

6 ユウスゲ
ユリ科　草

香住町では岡見公園に自生している高さ40～50cmの多年草で、夏に淡黄色で品格のある花が咲く。この花は夕方に咲いて翌朝にはしぼんでしまう「夜咲き」の花である。地元では育苗など地域全体で保護している。

【自生地】香住町／岡見公園

7 ウンラン
ゴマノハグサ科　浜



8▸10月

主に日本海沿岸の砂浜に自生する高さ20～40㎝ほどの多年草で、黄色い花びらがランの花に似ている。同じ仲間でトウテイランがあるが、すでに兵庫県では見られない。ウンランについても同じ運命をたどりそうな花である。

【自生地】浜坂町／芦屋

8 ケカモノハシ
イネ科　浜

7▸9月

海岸の砂地に自生する高さ30～80㎝の多年草。1本の穂状に見える花の集まりは、2個がくっついたものである。穂の形がカモのくちばしに似ていることから名前が付いている。イネ科の植物はどれも雑草として扱われることから減少している。

【自生地】浜坂町／芦屋

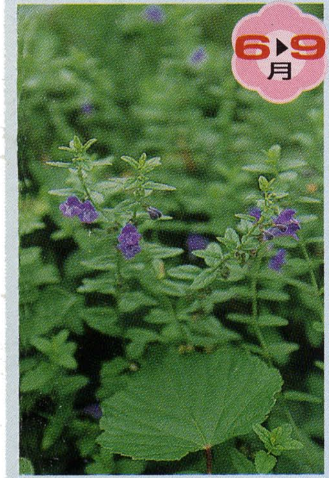
9 スナビキソウ
ムラサキ科　浜

5▸7月

海岸の砂地に自生する高さ30㎝ほどの多年草で、砂の中で根を伸ばして増えることから名前が付いている。近畿地方では兵庫県と京都府に残っていて貴重種となっている。

【自生地】竹野町／大浦

10 ナミキソウ
シソ科　浜



6▸9月

波が打ち寄せる所より少し陸側の砂地に自生する高さ10～40㎝の多年草で、紫色の唇のような形をした花が一方向に向いて咲く。但馬では海岸の開発により、生育できる環境が少なくなっている。

【自生地】浜坂町／芦屋

11 ネコノシタ
キク科　浜

7▸9月

海岸の砂地に自生する高さ20㎝ほどの多年草で、葉は厚く、猫の舌のように表面がザラザラしている。茎にも剛毛があり、長く地をはってよく分枝する。生育場所が海水浴場となるため、群落が少なくなっている。

【自生地】浜坂町／諸寄

12 ハマダイコン
アブラナ科　浜

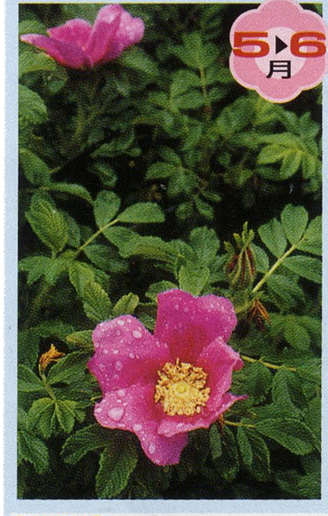
4▸5月

海岸の砂地に群生する高さ30～70㎝ほどの二年草で、淡い紅紫色の花を付ける。栽培する大根が野生化したものと言われている。

【自生地】竹野町／大浦

13 ハマナス
バラ科

浜

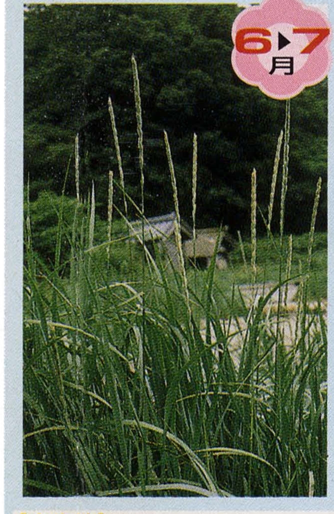


北日本の海岸の砂地に自生する高さ1～1.5mほどの落葉低木で、茎や枝にはトゲが密生している。初夏に枝先に1～3個の桃赤色の花をつける。地元では自生の株から種を採取し、保護増殖されている。

【自生地】香住町／安木

14 ハマニンニク
イネ科

浜



海岸の砂地に自生する高さ1～1.5mほどの多年草で、葉の形が、ニンニクの葉に似ていることから名前がついている。

【自生地】竹野町／大浦

15 ハマボウフウ
セリ科

浜

海岸の砂地に自生する高さ15cmほどの多年草で、葉は厚く光沢があり、若葉は刺身のつまに使われることから、よく栽培されている。根は砂の中深くに伸び、白い小さな花をたくさんつけて咲く。地元では保護増殖に努めている。

【自生地】香住町／安木

用語説明

自　　生…植物が人の保護を受けずに生き続けること。
多 年 草…2年以上にわたって生きる植物で、冬になると地上部は枯れるが地下部は残り春になると芽を出す。
群生・群落…同一種の植物が同じ場所に多く生えていること。
花　　茎…タンポポやヒガンバナなど葉をつけずに、花だけをつける茎。
乱　　獲…やたらに取ってしまうこと。

山地で見られる草花

マークの説明

開花時期

自生地
湿 湿地　河 河原　岩 岩場　渓 渓谷　水 水生　草 草地
浜 浜辺　林 林辺　林 林下

自生地は代表的な場所を示すものであり、これ以外の場所にも自生していることがあります。

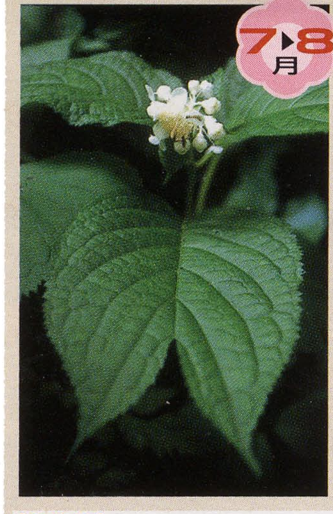
1 オタカラコウ 渓
キク科

8▸10月

山の沢沿いや湿った草原に自生する高さ1～2mほどの多年草で、オタカラコウは黄色の花を花茎にたくさん付けて咲く。その姿から男性的なイメージがあるが、その反対にメタカラコウは小柄なため、女性的であり相対する。なお、メタカラコウは現在ではほとんど見られなくなっている。

【自生地】美方町／備

2 ギンバイソウ 渓
ユキノシタ科

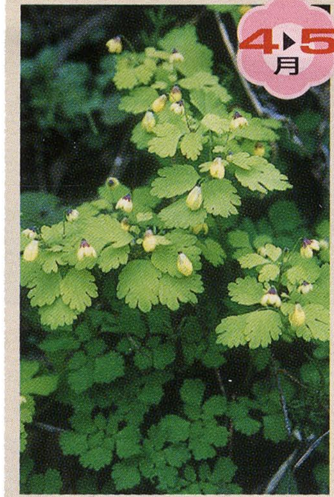


7▸8月

山の谷沿いに自生する高さ30～50cmほどの多年草で、大きな葉の先端が二つに裂ける独特の形をしている。夏になると白い梅の花の形をした花弁を咲かせ、まわりには淡い紅紫色の装飾花を数個つける。

【自生地】養父市／妙見

3 サンインシロカネソウ 渓
キンポウゲ科



4▸5月

深山の谷沿いの水気のある崖などに自生する高さ20cmほどの多年草で、花は黄緑色の花弁が垂れ下がって咲く。山陰地方のごく限られた環境に見られる。

【自生地】温泉町／菅原、養父市／福定

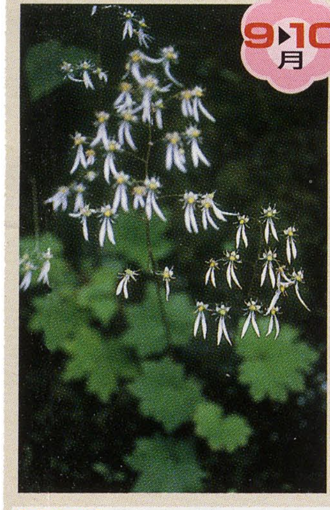
4 シャクナゲ 渓
ツツジ科

4▸5月

日本海側の山では標高300～600m、内陸では標高850m以上の高山に自生する高さ3mほどの常緑低木で、濃淡のあるピンク色の美しい花をつける。開発や乱獲により、その数は激減している。早急な保護対策が必要な植物である。

【自生地】香住町／三川山、美方町／実山・新屋
生野町／栃原

5 ジンジソウ 渓
ユキノシタ科



9▸10月

山の谷沿いの岩場などに自生する高さ30～50cmほどの多年草で、花びらが「人」の字に見えることから名前が付いている。ダイモンジソウに続き、乱獲にあっている。

【自生地】養父市／宮本・和田

6 ヒカゲツツジ 渓
ツツジ科

4▸5月

山の木陰などあまり日の当たらない岩場に自生する高さ1～2mほどの常緑低木で、春に淡い黄色の花が咲く。生野町では「史跡生野銀山」の坑道付近に群生している。

【自生地】生野町／白口

7 カキツバタ
アヤメ科

湿

6▸7月

山地の湿原に自生する高さ40～80㎝ほどの多年草で、銚子ケ谷湿原の約20万株の大群落には、約4千年前から自生していたとされる。梅雨から初夏にかけて青紫色の花が咲く。平成6年に県指定天然記念物となり、町が管理している。

【自生地】村岡町／銚子ヶ谷

8 ザゼンソウ
サトイモ科

湿

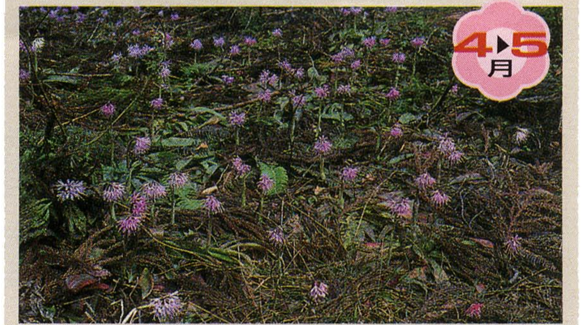
3▸4月

山の谷沿いや林内の湿地に自生する多年草で、雪解けとともに1株に1～2個の紫褐色の仏炎苞に包まれて咲く。その姿から別名ダルマソウともいう。村岡町では県の天然記念物に指定されている。

【自生地】村岡町／大笹、養父市／妙見

9 ショウジョウバカマ
ユリ科

湿



4▸5月

山のやや湿った林内や草地に自生する多年草で、茎の先に紅紫色の花が集まるようにして咲く。葉の先が地面に触れており、そこから発芽する。上山高原ではエコミュージアム事業により復元中のススキ草原に見られる。

【自生地】温泉町／上山高原

10 ノハナショウブ
アヤメ科

湿

7月

山間部の湿地や湿った草原に自生する高さ50～100㎝ほどの多年草で、栽培される花しょうぶの原種である。上山高原では、草原に木が侵入し、絶滅の危機にあったが、保護保全により増えつつある。

【自生地】温泉町／上山高原

11 ミズバショウ
サトイモ科

湿

4月

山の湿地や水辺に自生する多年草。当地のミズバショウは日本の南西限となる貴重なもので、県指定天然記念物になっている。葉に枯れるまで残る濃緑色の斑（はん）があるのが特徴的である。

【自生地】養父市／加保

12 ミツガシワ
ミツガシワ科

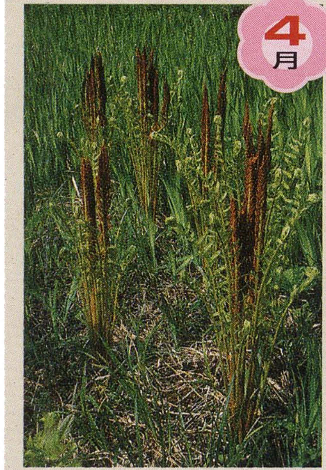
湿

5月

約1万年前の氷河期に広く分布した植物で、高山の湿原や沼地に自生する多年草。高さ10～15㎝で花穂に毛のある白い花をつける。当地のものは県下でも唯一で、県指定天然記念物になっている。

【自生地】養父市／鉢伏

13 ヤマドリゼンマイ 湿
ゼンマイ科



4月

但馬では高山の湿地に見られるシダで、胞子葉は赤褐色に近く、栄養葉は綿毛を落とすと黄緑色で大形となる。和名は山鳥の棲むようなところに生育するゼンマイという意味である。鉢伏高原の湿地は県指定天然記念物となっている。

【自生地】養父市／鉢伏

14 ウメバチソウ 草
ユキノシタ科

8▸9月

日当たりの良い湿気のある山地に自生する高さ10㎝ほどの多年草で、茎の先に梅の花に似た2㎝ほどの白い花を1個つける。草刈りをするなど草原を管理することによって多く群生する。

【自生地】美方町／新屋、養父市／鉢伏

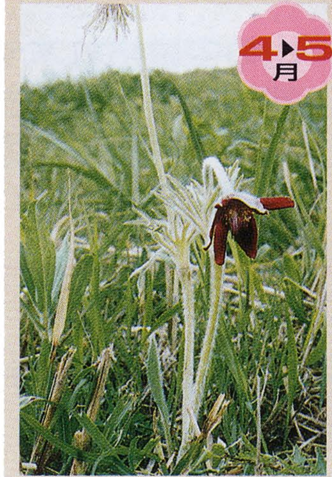
15 オオバギボウシ 草
ユリ科

7▸8月

山の北側斜面や谷沿いなど湿った草原や林内に自生する高さ60～100㎝の多年草で、鈴の形をした白や淡い紫色の花をたくさん付けて咲く。緑色の若芽は食べられる。かつては、よく見かける植物だったが、戦後の植林の拡大で今では少なくなっている。

【自生地】養父市／鉢伏

16 オキナグサ 草
キンポウゲ科

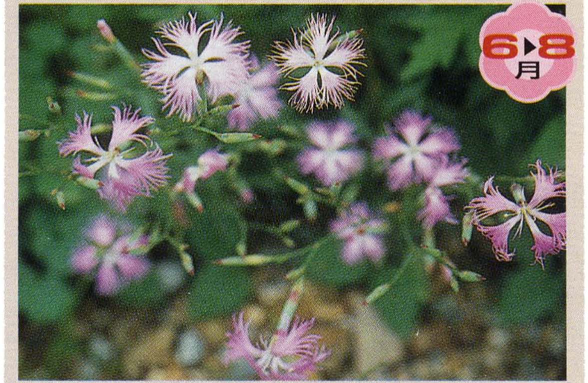


4▸5月

山の草原に自生する高さ20㎝ほどの多年草で、春には白い毛におおわれた濃い紅色の花が咲く。白髪に見える毛から翁（おきな）に見立ててこの名がある。現在、絶滅の危機にあり、早急な育成環境の保護と採取の防止が求められている。

【自生地】養父市／別宮

17 カワラナデシコ 草
ナデシコ科



6▸8月

山の日当たりの良い草原や河原に自生する高さ30～80㎝ほどの多年草で、秋の七草の一つで、淡紅色の花が咲く。近年、その数は減りつつある。

【自生地】養父市／樽見

18 タジマタムラソウ 草
シソ科

5▸6月

京都府北部から鳥取県東部に分布し、山の谷沿いの湿った岩場や草地に自生する。高さ30㎝ほどの花茎をのばし紫色の花をつける。新しい土を好むので、崩落地など表土が移動するような環境を好む。温泉町が基準産地であるので「タジマ」の名がつけられている。

【自生地】日高町／稲場、温泉町／海上、養父市／相地

19 アセビ
ツツジ科

林

3▶4月

山の日当たりの良い場所に自生する高さ2〜4mほどの常緑低木で、枝先に鈴の形をした小さな白い花が多数垂れ下がって咲く。葉や幹には毒があり、誤って食べた馬が酔ったようになったことから漢字で「馬酔草」と書く。

【自生地】生野町／栃原、朝来町／多々良木

20 ウツギ
ユキノシタ科

林

5▶6月

山の日当たりの良い場所に自生する高さ2mほどの落葉低木。幹の中は空洞になっていて、長さ1㎝ほどの白い花を咲かせる。山東町では県指定天然記念物であるウツギノヒメハナバチの蜜源になるウツギを守るため補植している。

【自生地】山東町／楽音寺

21 キツネノカミソリ
ヒガンバナ科

林

7▶8月

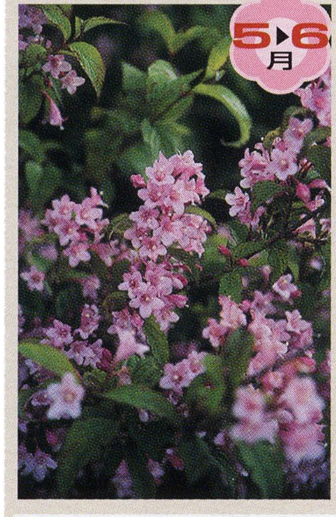
日当たりの良い落葉樹林の周辺に自生する高さ30〜50㎝ほどの多年草。葉は夏に枯れ、その後に花茎を出して数個のオレンジ色の花が咲く。和田山町では、小学生が毎年観察し保護している。有毒植物。

【自生地】和田山町／室尾山

22 タニウツギ
スイカズラ科

林

5▶6月



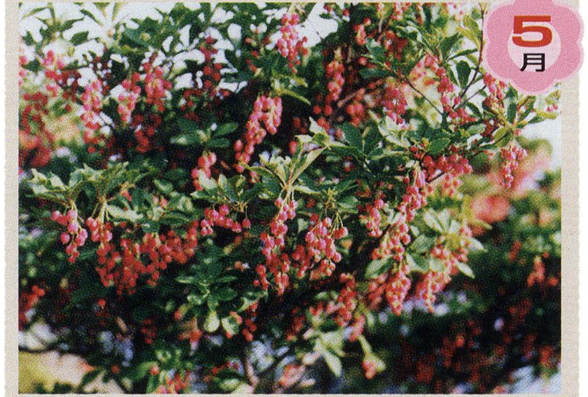
山の斜面に自生する高さ1〜4mほどの落葉低木で、名前が似ている「ウツギ」はユキノシタ科であり、異なる植物である。枝先に紅色の小花が集まって咲くので美しい。

【自生地】和田山町／糸井渓谷　他、但馬各地

23 ドウダンツツジ
ツツジ科

林

5月



山の尾根の日当たりの良い場所に自生する高さ2〜3mの落葉低木で、釣鐘状の紅色系の花を付ける。

【自生地】養父市／氷ノ山、生野町／栃原

24 ホツツジ
ツツジ科

林

8▶9月

日当たりの良い山の尾根や林辺に自生する高さ1.5mほどの落葉低木で、3枚のそり返った薄紅色の花をつける。ツツジの仲間では遅い時期に花を咲かせる。

【自生地】養父市／氷ノ山・鉢伏

25 ミツバツツジ
ツツジ科　林

山の林内に自生する落葉低木で、葉が出る前に紅紫色の花を咲かせる。但馬では低地にコバノミツバツツジ、山にユキグニミツバツツジが見られる。両者の違いは葉に特徴がみられる。

【自生地】出石町／寺坂、但東町／赤花（大師山）

26 レンゲツツジ
ツツジ科　林

山の日当たりの良い湿った場所に自生する高さ1～2mの落葉低木で、朱赤色の花が見事に咲きそろう。花びらが大形で、口を開けた様な姿から地元ではオオカミツツジと呼んでいる。

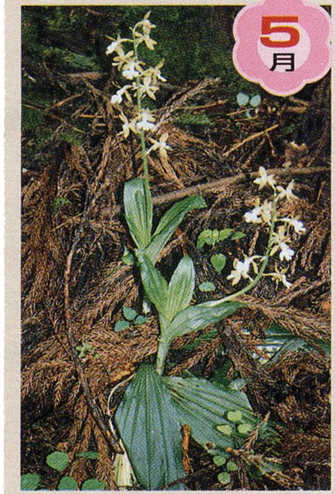
【自生地】村岡町／兎和野

27 エゾアジサイ
ユキノシタ科　林

主に山岳地で見られる落葉低木で、氷ノ山の登山道沿いでよく見かける。葉はヤマアジサイより丸みがあり、青みがかった花が咲く。養父市ではネマガリ竹の繁殖により個体数が減少したため、草刈りをして保護されている。

【自生地】養父市／氷ノ山

28 エビネ
ラン科　林



山の林内に自生する高さ20～30㎝ほどの多年草で、直立した茎に8～15個の緑褐色の花を付ける。かつてはいたるところに自生していたが、乱獲により極めて少なくなった。厳重な採取の禁止が必要である。

【自生地】竹野町／羽入

29 オオイワカガミ
イワウメ科　林

山の落葉樹林下に自生する常緑の多年草で、葉は光沢があり8～12㎝ほどの丸い形をしている。春に淡紅色の可憐な花を4～10個付ける。美方町では沿道の管理とともに保護されている。

【自生地】美方町／実山

30 カタクリ
ユリ科　林

山の落葉樹林内に自生する高さ10～15㎝ほどの多年草で、昔はカタクリ粉を取っていた。当地のカタクリは開発により一時は絶滅しかけたが、工法に配慮して保護され、地元立脇区の方が手厚く見守っている。

【自生地】朝来町／立脇

31 キバナアキギリ
シソ科

林

山のやや湿り気のある林内に自生する高さ20～40cmほどの多年草で、花の形がキリ（桐）の花に似ていることから名前が付いたと言われる。自然林を残すことで、個体数の確保に努めたい。

【自生地】養父市／横行

32 ササユリ
ユリ科

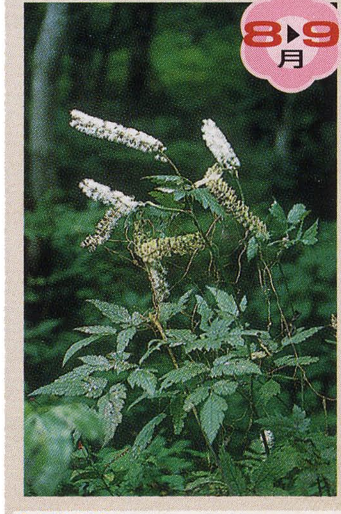
林

山の草地や林内に自生する高さ50～100cmの多年草で、初夏には淡紅色の清楚な花を咲かせる。但馬の各地で愛護活動が行われている。種から花をつけるまで5年ほどかかる。

【自生地】浜坂町／宇都野町、養父市／国木
朝来町／多々良木

33 サラシナショウマ
キンポウゲ科

林

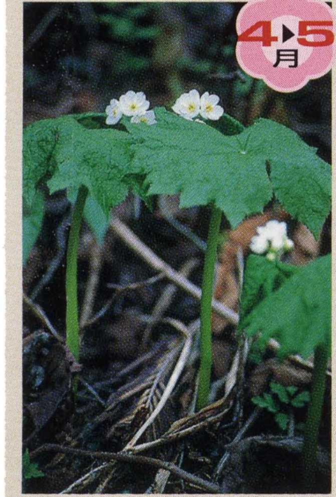


山の少し湿った林の周辺や草地に自生する高さ1～1.5mの多年草で、8～9月頃に茎の先に長い穂を出し、多数の白い花を付ける。

【自生地】養父市／鉢伏

34 サンカヨウ
メギ科

林



深山のやや湿った場所に自生する高さ30～60cmほどの多年草で、30cm前後の切れ込みのある大きな葉が特徴的である。小さな白い花を数個つけ、秋になると花のあとに青紫色の実をつける。

【自生地】温泉町／丹土、養父市／妙見

35 シュンラン
ラン科

林

山の落葉樹林内などに自生する高さ10～30cmほどの多年草で、春先に花茎から淡い黄緑色の花が咲く。かつては普通に見かける花ではあったが、乱獲や森林開発、シカの食害により希少種になっている。

【自生地】養父市／畑

36 バイケイソウ
ユリ科

林

但馬では氷ノ山や妙見山、蘇武岳などに確認されている希少種で、やや湿った日当たりの良い場所に自生する多年草。6月下旬に長い花茎を立てて緑白色の花を数多くつける。生育環境が限られるので、保護対策が求められている。

【自生地】養父市／妙見

37 ヒョウノセンカタバミ
カタバミ科　林

5▶6月

氷ノ山のブナ林など落葉樹林内に自生する多年草で、白く清楚な花をつける。この地域のごく限られた場所にしか自生しないので、自然林を保護する必要がある。

【自生地】養父市／氷ノ山

38 ミツマタ
ジンチョウゲ科　林

3▶4月

人里近くの山に見られる高さ2mほどの落葉低木で、葉が出る前に3つに枝分かれした枝先に、小さな黄色い花をつけて咲く。樹皮の繊維は和紙（紙幣）の原料に使われる。

【自生地】生野町／栃原、朝来町／多々良木

39 モミジガサ
キク科　林

8▶9月

山のやや湿った林内に自生する高さ90㎝ほどの多年草で、葉の形がモミジに似ていることから名前がついている。夏から秋にかけて白色の小花が5個ほど集まって咲く。

【自生地】養父市／妙見

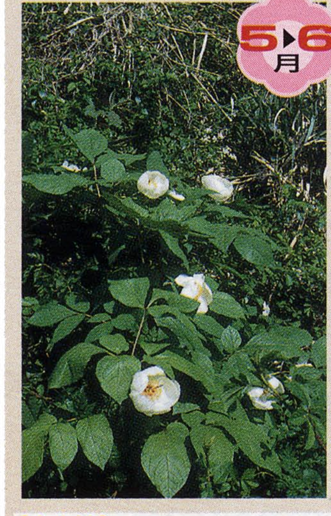
40 ヤマアジサイ
ユキノシタ科　林

6▶7月

山の湿った林内や沢沿いに多く見られる高さ1〜1.5mほどの落葉低木。花の色は青が一般的であるが、紅紫色や白っぽいものなど変異が多い。

【自生地】養父市／妙見

41 ヤマシャクヤク
ボタン科　林



5▶6月

山の林内に自生する高さ40〜50㎝ほどの多年草で、葉の形やつぼみがシャクヤクに似ている。美しい花をつけることから、乱獲にあい、急激に数を減らしている。そのため地元では区域内立ち入らないようにロープを張り、看板を立てて保護している。

【自生地】和田山町／町内

42 ユキザサ
ユリ科　林

5▶6月

主にブナ林下に自生する高さ20〜30㎝ほどの多年草で、花びらが雪の結晶に似ていて、葉の形が笹の葉に似ているので名前がついている。

【自生地】養父市／横行

43 ユキワリイチゲ

キンポウゲ科

林

少し湿った山の林内に自生する高さ10～25㎝ほどの多年草で、早春に開花することから名前がついている。葉は白い斑紋（はんもん）があり、少し汚れて見えるが、花は淡紫色で清楚な感じがある。地元では周辺の草刈りをして環境維持をしている。

【自生地】和田山町／宮

用語説明

自　　生…植物が人の保護を受けずに生き続けること。
多 年 草…2年以上にわたって生きる植物で、冬になると地上部は枯れるが地下部は残り春になると芽を出す。
群生・群落…同一種の植物が同じ場所に多く生えていること。
花　　茎…タンポポやヒガンバナなど葉をつけずに、花だけをつける茎。
乱　　獲…やたらに取ってしまうこと。

※2004年発行　2014年PDF作成

植物鑑賞マナー

草花は、命短く、かよわい生き物です。
マナーを守って未来に残そう。

植物をとらないで！
草花の中には、絶滅の危機にある種があります。むやみに踏みつけたり、つみ取ったりしないようにしましょう。

保護柵の中に入らないで！
保護柵の中に入ったり、登山道や散策道のコースからはずれないようにしましょう。

ゴミを持ち帰ろう！
貴重な自然を汚さないためにも、ゴミは必ず持ち帰りましょう。

たき火・たばこのポイ捨てをしないで！
山の中は枯れ木や落ち葉など、燃えやすいものがたくさんあります。たばこのポイ捨てや指定区域以外でのたき火はしてはいけません。

今、但馬では野生の稀少な草花が危機的状況におかれています。

それというのも、かつて当然のように自生していたシュンラン、エビネ、ササユリなど、生育環境の変化や一部の心無い人たちの乱獲により、各地域から消えかけています。

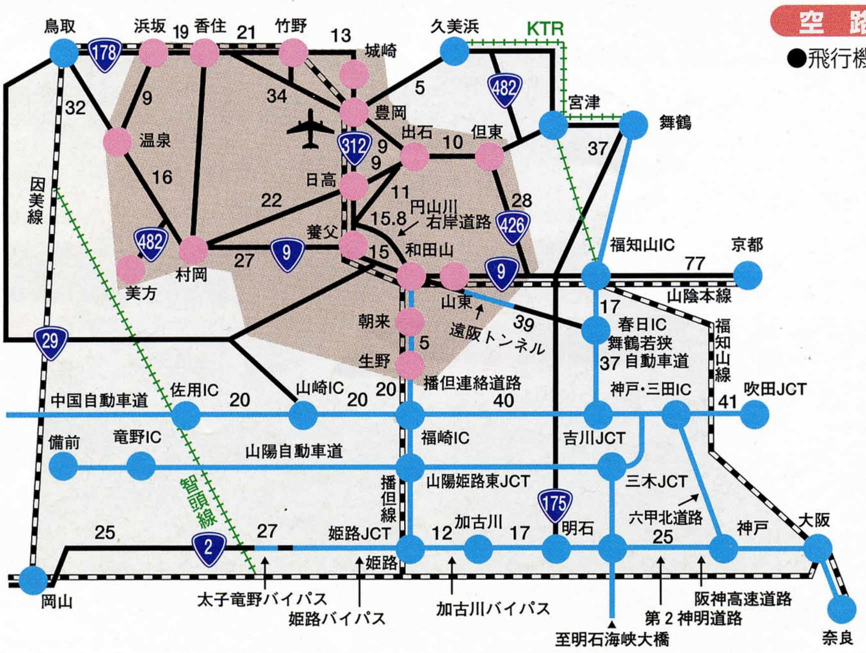
このマップの目的は、地域の人々がその草花や自然環境の大切さを認識し、保護保全の気運を高めてもらおうというものです。

なお、作成にあたっては、但馬各市町、兵庫県生物学会但馬支部、コウノトリ市民研究所、西但馬の自然を考える会、南但馬の自然を考える会の皆さんに多大な協力をいただきました。

マナーを守り、住民の手によって但馬の草花を未来に残しましょう。

（財）但馬ふるさとづくり協会

交通アクセス



空　路　但馬空港管理事務所　（問）0796-26-1500
●飛行機で　大阪空港からコウノトリ但馬空港…約35分

車　［豊岡まで］
大阪（吹田JCT）から……約2時間40分
神戸（神戸・三田IC)から…約2時間10分
姫路（姫路JCT）から……約2時間
京都（京都駅）から………約2時間30分

全但バス（問）0796-62-2131
大阪から城崎……………約3時間30分
神戸から城崎……………約3時間20分
大阪から湯村温泉………約3時間35分
神戸から湯村温泉………約3時間20分
鳥取から湯村温泉………約1時間

ＪＲ
大阪駅から豊岡駅…約2時間30分
三宮駅から豊岡駅…約2時間20分
姫路駅から豊岡駅…約1時間30分
京都駅から豊岡駅…約2時間25分

発行／（財）但馬ふるさとづくり協会　兵庫県豊岡市山王町11-28
TEL.(0796)24-2247　FAX.(0796)24-1613

このパンフレットは、再生紙・ソイ（大豆油）インキ・水なし印刷による環境にやさしい印刷システム「エコプリ」で製作しました。

2004年発行